

# LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#26

## 銘醸地 フランチャコルタ を行く

### フランチャコルタとは

イタリア北部の湖水地方の一つ、イゼーオ湖の南東一帯にフランチャコルタ (franciacorta) と呼ばれるスパークリングワインの銘醸地がある。この地区で作られかつ原産地呼称DOCGを取得したスパークリングワインは、スプマンテと言わず、土地の名称であるフランチャコルタと呼ばれる。スパークリングワインを瓶内二次発酵で醸造すると共に、地区名で呼ぶのはフランスのシャンパーニュとスペインのカヴァ、そしてこのフランチャコルタのみである。イタリアで初めてDOCGを取得したフランチャコルタの規模はシャンパーニュやカヴァに比べるとごく小さいが、その品質の高さからイ

タリア最高峰のスパークリングワインと讃えられている。100を越すワイナリーの殆どが有機栽培であり、シャンパーニュより厳しい基準の元に作られるという事も、フランチャコルタが高い評価を受ける所以ともなっている。

思い起こせば随分と昔、イゼーオ湖でRIVAの試乗をした後、リーバラウンジで冷えたフランチャコルタで渴いた喉を潤したのがフランチャコルタとの初めての出会いだった。それ以来シャンパーニュとは違ったスッキリとした飲み口と繊細な泡立ち、ピノネーロの芳醇な香りに忽ち虜になってしまった。

フランチャコルタへはミラノから車で1時間程の距離なので、今でも時間がある時はワイナリー巡りを楽しんでいる。

### ワイナリー訪問

長い間愛飲している「カ・デル・ボスコ (Ca del Bosco)」だが、ワイナリーに初めて訪れ深い感銘を受けた。これまで数多くのワイナリーを訪れたが、これ程の感銘を受けたワイナリーはそうそうない。入り口ではイタリア人作家によるアーティスティックな大扉が出迎えてくれる。木立が続く小道を行くと芝生に覆われた小高い丘が遙か彼方まで波打つ様に続いていて、大きなアートのインスタレーションが見る眼を釘付けにする。小川が流れ木製のアーチ橋が素朴さと優美さを兼ね備えている。そんな素晴らしい環境の丘の上に木材を多用した巨大かつモダンな醸造棟が出現する。



フランチャコルタで常にトップを走り続ける「カ・デル・ボスコ」は、森の家という意味の通り、木々と芝生に覆われた広大な敷地には小川が流れ、木造の橋が架かっている。芝生の丘を登り巨大な彫刻を通り過ぎると、造形美溢れる木造の建物が眼前に現れ、ワイナリー内の通路には、フレンチオークの小樽がアートの様な空間を作り出していた。赤い壁面と木造の構造美が印象的なテイスティング棟で、生ハムとチーズをほうぼりながらテイスティングに興じた。



湖に近いコルテフランカ地区に位置する「ルレ・フランチャコルタ」は、17世紀の石造りファームハウスを改装した素敵なホテルで、敷地は6万㎡もあるという。パーキングにはモナコナンバーのジャガーやボルシェ、スイスナンバーのベンツがずらり。ホテル地下には、希望すればプライベートな食事が出来るワイナリーが。噴水のある中庭に面したリストランテが実に快適で、料理も美味。

一歩中に入ると、吹き抜けの大空間にそびえ立つ巨大なステンレス製タンクを取り巻く様に、銀色に輝くインスタレーションが醸造所をアート空間へと変貌させていた。その後にくすロベニアオークの大樽やフレンチオークの小樽の並ぶ様の美しさは、ワイン造りが美の領域に昇華した結果が此処にあり……、と認識するに充分だった。

ワイナリー見学が終わるとテイスティング棟に移動。柱が一本もない木造の大空間の構造美とカラーリングに感心ひとしきり。女性ソムリエは先月新婚旅行で日本に行った事を楽しそうに話してくれた。

### フランチャコルタのホテル

フランチャコルタで気に入っている宿が幾つかあるので紹介したい。「ラルベレータ (L'Albereta Lelais et chateau)」はイタリア最高峰のシェフと言われたマルケージが、ベッラヴィスタ (Bella Vista) 村の高台に自社畑に囲まれたリストランテを併設し話題となったプチシャトーだ。僕自身とても気に入って90年

代には何度も訪れたが、その後マルケージは古巣のミラノに戻り、ラルベレータの経営は変わってしまったが、未だにフランチャコルタ最高峰のホテルとして人気を保っている。

イゼーオ湖を眼下に見下ろす、ガラス張りの眺望抜群のリストランテを持つ「ミラベッラ イゼーオ (Romantik hotel Relais Mirabella Iseo)」は客室が全てレイクビューだ。リストランテでの朝食は清々しく、キラキラと湖面に映るイゼーオの街の灯火を眺めながらのディナーが格別である。

今とても気に入っているワイナリー「ベルシ・セルリーニ (Bersi Serlini)」へはフランチャコルタを訪れると必ず訪問するので、ワイナリーにはほぼ隣接する素敵なホテルを見つけて二度ほど滞在した。「ボルゴ サンタジュリア (Borgo Santa Giulia)」はかつての貴族の館をホテルに設えた小粋なホテルだ。特筆すべきはリストランテのコースメニューである。海の幸と山の幸の二通りあって、その種類の多さとリーズナブルな価格設定に何時も驚かされる。

最近見つけたホテルが「ルレ・フランチャコ

ルタ (Le Relais Franciacorta)」だ。今年の春先に2泊の予定で滞在したのだが、あまりの快適さに結局4連泊した。何時もは余程の事が無い限りホテルで食事をとることはないのだが、中庭に面したテラスレストランがあまりに快適だったので、毎日ホテルで食事をすると言う初体験をしてしまった。夕食前の中庭では、フランチャコルタで喉を潤す幸せを噛みしめる毎日だった。3日目の夕方、何時もの様に中庭に降り立つと、なんと一目見て年代物とわかる真黒なBMWのバイクがざっと数十台勢揃いしているではないか。ホテルオーナー息子のコレクションという事で早速話を聞いてみたところ、1940～60年代のレース用のヴァンテージものとの事。BMW社から正式に認められたと言うロゴマーク入の立派な看板を自慢気に見せてくれた。イタリア人のドイツ車好きを改めて認識したのだった。PB.

### Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。